

【ご参考資料】

2015年6月4日

6月3日発表のブラジル政策金利の引き上げについて

政策金利を13.25%から13.75%に引き上げ

2015年6月3日(現地時間)、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.5%引き上げ、年率13.75%とすることを全会一致で決定しました。利上げは6会合連続となります。前回の会合の議事録や同中銀総裁の会見で、インフレに対する警戒が相次いで示されたことから、市場の大半が利上げを予想していました。

同中銀は声明文の中で、今回の利上げは、マクロ経済見通しとインフレ予測を勘案しての決定としました。

同中銀はインフレを引き続き警戒

4月のインフレ率が8.17%と、同中銀の目標レンジ上限である6.5%を大幅に上回る中、投資や消費の減少など景気低迷を示す経済指標の発表が続いています。また、政府が財政健全化のために、一部予算の執行停止や増税を決めたことも、景気の下押し要因となっています。こうした中、同中銀はインフレ抑制に努めながら、景気にも配慮する難しいかじ取りを強いられています。

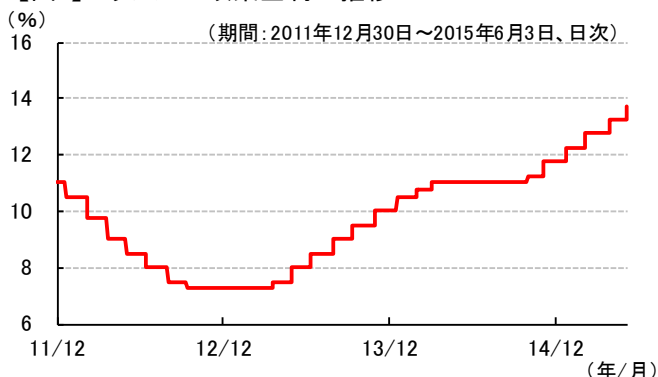
しかし、インフレ抑制や財政健全化への強い姿勢は、市場の信認回復につながるとともに、長期的な経済成長にとってプラスになると考えられます。

声明文では、前回に続き、今後の金融政策について示唆する表現はありませんでした。インフレ率など、今後発表されるデータを見極めながら政策決定する余地を残したものと思われます。

次回の金融政策決定会合は2015年7月28-29日(政策発表は日本時間7月30日)の予定です。

以上

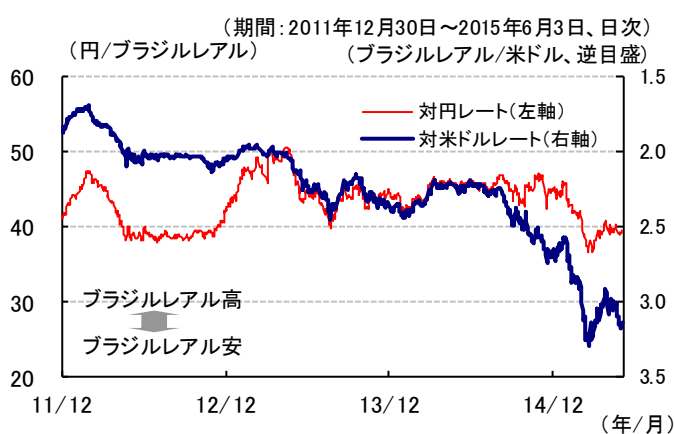
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率(拡大消費者物価指数、IPCA)(前年同月比)の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成